

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層

(11) 箱根東京テフラ 露頭剥ぎ取り標本（海老名市大谷）

標本番号 KPM-NP 58

標本名 箱根東京テフラ 露頭剥ぎ取り標本（板付き）

大きさ 幅 1.2 m, 高さ 2.05 m

重量 18.6 kg

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で大型移動
棚に収蔵

採集地 神奈川県海老名市大谷（児島酒店の裏の崖）

緯度・経度 N35°26'18", E139°23'41"

標高 20 m

露頭の種別と現状 段丘崖の自然露頭、消失

露頭面の向き、傾斜 ほぼ N-S、ほぼ垂直

堆積物の種別 降下テフラ（陸成層）

年代 660 ± 5.5 ka（箱根東京テフラ，青木ほか，2008）

採集作業者 海老名市理科資料地質調査研究委員会

採集日 1994 年 11 月～1995 年 3 月

関連文献等

笠間友博・山下浩之（2005）高森丘陵南西部で出現した特徴的な箱根新期軽石流堆積物 [Hk-T(pfl)] について～高森丘陵と多摩丘陵で発見されたスコリアを含む成層堆積物の共通層序～，神奈川県立博物館研究報告（自然科学），(34): 1-16.

解説 神奈川県海老名市の河成段丘の段丘崖で採取された標本である。火山灰土層に含まれるテフラは下位より箱根三浦テフラ [Hk-MP]（三浦軽石）、箱根東京テフラ [Hk-TP]（東京軽石）およびその軽石流堆積物 Hk-T(pfl) である。箱根三浦テフラは途中欠落する部分があり保存は良くない。降下ユニットも不明瞭で、下位の降下軽石ユニットとその上に重なる火山砂を中心とするユニットが混合したような岩相を呈している。なお最上部の火山灰層からなる降下ユニットは見られなかった。Hk-TP は降下ユニットが明瞭である。スケッチは笠間・山下（2005）に従って区分した。TP1～8 まで、ほぼ全ての降下ユニットがみられる。Hk-T(pfl) は、笠間・山下（2005）が塊状軽石流とした堆積物と成層軽石流堆積物とした堆積物がセットでみ

れる。塊状軽石流堆積物は相模川以東では 2 つのフローユニットが存在するが、ここでは 1 つ（上位ユニット）のみである。成層軽石流堆積物との間には笠間・山下（2005）が ST(a)、ST(b) とした降下ユニットはなく、ST(c)、ST(d) に相当すると考えられる部分が堆積している。成層軽石流堆積物に関しては 2 次堆積物の可能性も否定できない。

記録者 笠間友博



図 1a-11-1. 採集地点（国土地理院発行の数値地図 50,000（地図画像）「埼玉・東京・神奈川」を使用）。

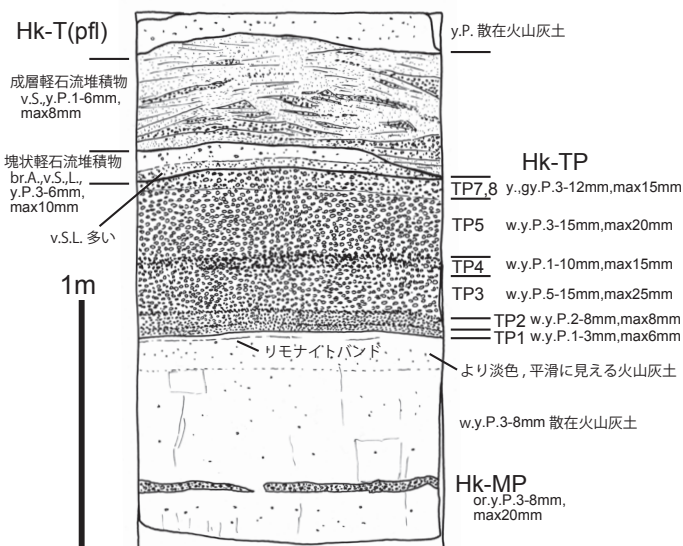


図 1a-11-2. 標本のスケッチ（左，笠間原図）と写真（右）。

